

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	埼玉県	事業実施主体	埼玉県、飯能市、入間市	地域再生計画名	森林文化都市はんのう 水と緑の回廊強化プロジェクト
計画期間	令和4年度～令和8年度	評価責任者	飯能市企画総務部長		

①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	地域再生計画の目標		基準値		中間目標値			最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	目標1	年間観光入込客数	286万人	R3	400万人	R6	384.6万人	480万人	R8	×	指標 総数	達成 数	中間目標値を下回っており、引き続き事業実施による交通の利便性向上及び市内観光スポットの回遊性向上が求められる。	
	目標2	人口社会増の幅の増加	48人	R3	300人	R6	1318人	500人	R8	○	3	1	中間目標値及び最終目標値を既に達成しているが、この状況を維持させるため、移住・観光施策の促進につながる市道・林道の整備が求められる。	
	目標3	年間森林整備面積の拡大	240ha	R3	270ha	R6	38ha	300ha	R8	×			中間目標値を下回っており、森林を整備するための地権者からの同意取得や現地確認に時間を要することから最終目標値の目標達成も厳しい状況である。達成するためには、林道の整備事業の促進が求められる。	
②事業の進捗状況		事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
				計画	中間年度 (R6)	最終実績 見込み								
特別措置を適用して行う 事業	市道整備事業	4.357km	0.9581km	2.293km	計画的に進捗を図っているものの、交通状況の変化による交通渋滞や迂回道路整備など課題が生じている。計画的かつ効率的な道路整備に取り組んでいく。									
	林道整備事業	5.0km	0.39km	2.312km	計画的に進捗を進めているところだが、一部法面崩落等で通行止が生じたため進捗が遅れている。引き続き、計画に則った整備に取り組んでいく。									
その他の事業	ゼロカーボンシティ推進事業	森林資源の活用、環境学習の推進を通じて、2050年までに二酸化炭素の実質排出ゼロを目指す。			令和3年2月に所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市を構成市とする埼玉県西部地域まちづくり協議会で、「ゼロカーボンシティ」を表明した。5市の特徴を活かしながら、脱炭素に向けて森林の整備・保全及びその活用、再生可能エネルギーの利用・促進、省エネルギーの推進に取り組んでいる。									
	エコツーリズム推進事業	身近な自然、地域の産業、生活文化等の資源を持続可能な形で活用したエコツアーを推進している。			自然や生活文化などを資源としたエコツーリズムの推進に取り組み、年間100本以上のツアーを企画している。直近R6年度のエコツアー参加者数は3,320人であり、コロナ禍前の水準への回復途上である。引き続きツアーガイドの人材育成を進めるとともに、市内事業者との連携により経済効果を高めるツアーを実施することで、交流人口の増加に努める。									
	情報メディア発信事業	情報サイトやSNS、外部メディアなどを活用し、本市の魅力や取組を発信して、認知度の向上を図る。			市街地に点在する観光拠点の魅力向上のため、市の広報紙やホームページ、飯能市ご当地アプリ、SNS等の様々な方法で情報を積極的かつ分かりやすく提供している。									
	移住定住推進事業（飯能住まい事業）	「農」のある暮らしを提唱した移住支援を実施し、良質な生活空間の創出を図り、転入者の増加を図る。			移住定住や地域活性化を促進することを目的とした飯能住まい制度や空き家バンク制度等により、制度開始から令和6年度末まで飯能住まい制度においては80組253人の認定を行い、空き家バンク制度では物件の成約が63件148名となり、定住人口の増加につながった。引き続き事業を実施し、更なる定住人口の増加を図っていく。									
	森の番人事業	市有林の管理・活用を通じ、森林の公益的機能の向上や後継者育成を図る。			市有林の間伐等の維持管理を実施したほか、学生等への林業・技術指導を通じ、森林の持つ多様な公益的機能の向上や後継者の確保・育生に貢献した。今後もこうした取り組みを継続的に実施し、さらなる効果の発現を図っていきたい。									
	西川材利用促進事業	森林認証制度を通じ、西川材の付加価値を高め更なる利用拡大を図る。			森林認証制度の認証更新を令和6年度に実施し、FM認証取得森林面積は2,099.86haであった。西川材使用住宅等建築補助金では、令和4年度から3か年で新築・リフォーム等19件の交付を行った。はしらベンチの設置は、令和4年度から3か年で市内外に累計290基設置し、西川材の利用促進ならびにPRを図った。今後も引き続き事業を実施し、更なる効果の発揮を図っていきたい。									
	計画外で独自に実施した 事業	—	—			—								
③評価方法		庁内経営層（全部長）で構成する事後評価会で実施。												
④中間評価の公表方法		埼玉県及び飯能市企画課のホームページに掲載												
⑤計画全体の総合評価		目標1・3については目標を達成する見込みが薄い状況であり、引き続き地域再生計画の事業展開を図る必要がある。 また、目標2「人口社会増の幅の増加」について、年毎の変動が大きい目標となっていることから目標1・3と同様に引き続き事業展開が必要な状況にある。 地方創生道整備推進交付金を活用した市道と林道の一体的な整備を進めることで、交流人口の増加及び林業の活性化を図ることができると考える。												
⑥今後の方針等		中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容							
		地域再生計画の見直し（有・無）												
		令和7年度予算要望額への反映（有・無）												
		有りの場合の増減額 千円												
⑦今後の方針等に対する 対応		引き続き現行の計画に沿って事業に取り組んでいく。												